

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,15 2015年 夏号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い⑮

ありがとう！鳥海イヌワシみらい館開館15周年「イヌワシ、みらいへ！」

突撃！鳥海イヌワシみらい館！

山形県朝日町 さくら養蜂園&ハチ蜜の森キャンドル」

ハチクマ養蜂場へ現る！

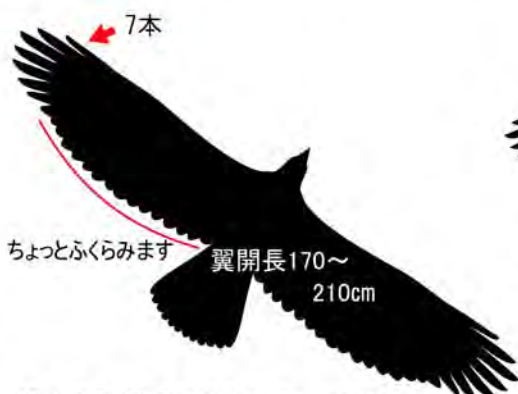
『イヌワシ』酒田市にて
撮影：長船裕紀



バードウォッチングへの誘い⑮
 ありがとう！鳥海イヌワシみらい館 開館15周年
 「イヌワシ、みらいへ！」

鳥海イヌワシみらい館(猛禽類保護センター)は、今年開館から15周年を迎えます。山形県酒田市の鳥海山南麓では、1989年から山形県八幡町(現酒田市)で進められた、スキー場開発計画による環境への影響を危惧した地元山岳会メンバーや自然愛好家の有志が集い、山岳研究の一環として調査を開始したところ、1995年に鳥海山南麓にイヌワシの営巣地が発見されました。これをきっかけに1997年にスキー場開発計画は中止となります。これは環境庁(現:環境省)が策定した「猛禽類保護の進め方(平成8年策定)」を援用し、開発が中止になった全国で初めての事案として、当時メディアを巻き込んで大きく取り上げられることとなったのです。さらには八幡町の誘致活動により、2000年、全国で唯一の猛禽類保護センターが鳥海山の南麓に開設されました。開発の危機から難を逃れた鳥海山南麓のイヌワシたちは、今でも地元有志の人々によって見守られ続けています。

鳥海山南麓のイヌワシ営巣地が発見されてから今年でちょうど20年、企業のCSR(社会的責任)活動によって、新しいイヌワシ保護、環境保護の取り組みがスタートした一方で、私たちはどうでしょうか？越境汚染、ゲリラ豪雨、竜巻など以前と変化した日本の環境の中で、私たちは持続可能な社会と生活、そして地球環境をどのようにしてのちの世代に伝えていくか真剣に考えなくてはならない時期を迎えています。2度目の「沈黙の春」が訪れることのないよう、バードウォッチングを通して、イヌワシと私たち人間が共存できる「みらい」を考えてみませんか？



遠くを飛ぶイヌワシはシルエットを見分けられるかがポイント！イヌワシは翼が完全な状態であれば、翼端が7本に分かれます。



これからのシーズン、繁殖がうまく成功していると、イヌワシの幼鳥に出会えるかもしれません。白い三ツ星(両翼と尾羽に入る幼鳥斑)にご注意ください！



入門者のイヌワシ観察では、トビとの見分けがもっとも厄介かもしれません。イヌワシの生息地でも見かける頻度が多く、大きさも遠くを飛んでいると比較が難しいです。翼の白い斑紋も、離れた距離で見るとイヌワシの幼鳥だと思いがちになるかもしれません。尾羽が三味線のバチ型になることがポイントですが、翼の翼端も6本とイヌワシより1本少ないです。

鳥海山南麓でのイヌワシの繁殖成績

年	繁殖の成否
1993年	○(1羽)
1994年	×
1995年	○(1羽)
1996年	○(1羽)
1997年	×
1998年	○(1羽)
1999年	×
2000年	×
2001年	×
2002年	○(1羽)
2003年	×
2004年	○(1羽)
2005年	×
2006年	○(1羽)
2007年	○(1羽)
2008年	×
2009年	×
2010年	×
2011年	×
2012年	○(1羽)
2013年	×
2014年	×
繁殖成功率	9/22(40.9%)

庄内の動物情報コーナー

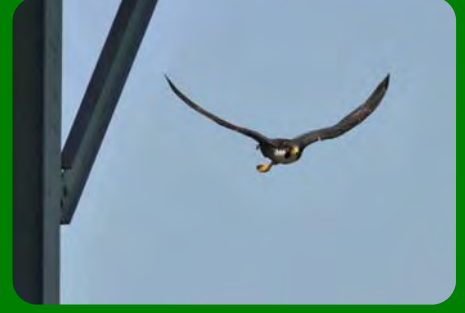
今年は季節がおかしい？5月下旬からほとんど雨が降らなかった庄内ですが、山桜の咲く時期も早かったり、駆け足で過ぎていった春～初夏です。引き続き皆様の投稿をお待ちしています。投稿はmoukin@raptor-c.comまで。庄内に限らず、広く情報をお待ちしています。



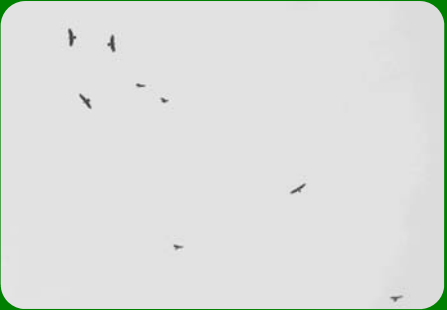
2015/4/29「カワセミ」酒田市
飛ぶ宝石カワセミ！しかも2羽で見れるなんて！河川敷で耳を澄ますと声が聞こえてくるかな？撮影：ナッシーくん



2015/4/30「チュウヒ」酒田市
河川敷で出会ったそうです。山形県では渡りの途中に通過する程度なので、春の渡りの貴重な1コマです。撮影：阿部治雄様



2015/5/8「ハヤブサ」酒田市
キリッ！とした表情。最速のハンターが向ける視線の先には・・・
撮影：宇佐美信様



2015/5/15「ハチクマのタカ柱」酒田市
この画像に写っただけでも8羽もいます。山形よりも北の繁殖地へ向かうのでしょうか。これもタイミングが合わないとなかなか見れません！撮影：宇佐美信様



2015/6/24「コアニドリ」酒田市
名前だけ聞いて、鳥だと思ったら植物でした。秋田県の小阿仁という地名からつけられたそうです。白くて可憐ですね～。
撮影：齋藤利孝様



2015/7/4「フクロウ幼鳥」遊佐町
この時期フクロウの幼鳥が保護される話が多いのですが、実はただ木から降りただけというのがほとんどだそうです。これは本当に翼を怪我したフクロウで救護所へ搬送されました。撮影：加藤俊和様



2015/7月「サンコウチョウ」遊佐町
「月、日、星、ホイホイホイ！」と鳴くから三光鳥。尾羽がとっても長いことも特徴です。近くで見てみたい！
撮影：加藤俊和様



2015/5月「イカリモンガ」山形県朝日町
昼、羽を閉じて花の蜜を吸っているのはチョウ！いえ、これはチョウのような「ガ」。羽の表側に「イカリ」状の模様があります。撮影：本間憲一



2015/6月「アサヒナカワトンボ無色羽型」新潟県村上市
むむむ。ニホンカワトンボと見分けが難しいトンボ。メタリックな青い身体が美しいです。
撮影：宮川道雄様

ハヤブサ親子、サシバを食らう



図1



図2

巣立ちしたばかりの猛禽類の幼鳥は自ら獲物を捕獲できないため、巣立ち後しばらくは親鳥がエサを与えます。この時期を巣外育雛期といいます。2015年6月上旬、山形県の某所、ハヤブサの繁殖地で3羽のヒナが巣立ちました。その後、巣外育雛期のある日のこと。親鳥が運んできたエサを取り合う様子が観察されたのですが、親鳥の足に掴まれてしまっていた獲物がサシバだったのです(図1)。サシバは成鳥のようです。近くで繁殖活動をしていたサシバが襲われたのかもしれませんが、サシバがオオタカに襲われることは多いようですが、山形県のサシバの繁殖地はクマタカが同所的に生息している地域も多く、クマタカ、ハヤブサもサシバにとっては天敵かもしれませんね。数日後、捕食されたサシバの頭部が観察者から提供されました(図2)。

突撃！鳥海イヌワシみらい館！

山形県朝日町「さくら養蜂園」「ハチ蜜の森キャンダル」



今回、「さくら養蜂園」と、「ハチ蜜の森キャンダル」さんの全面的な協力のもと、山形県内での猛禽類「ハチクマ」の養蜂場の利用頻度や様子を記録させていただけることになりました。訪問の際、ハチ蜜の森キャンダル代表の安藤竜二さんにインタビューさせて頂きました。



国道287号線から最上川を渡り、朝日町の山中へ向かいます。しばらくすると宮沢賢治の物語の中にまよいこんでしまったようなノスタルジックな雰囲気

の建物「ハチ蜜の森キャンダル」が見えてきます。訪問したのは5月中旬、ちょうど山形県にハチクマが入り始めたころです。ハチミツづくりの現場に立ち会うのは初めてだったので、採蜜後の気の立ったミツバチが「ブーン！」と大きな音を立てて私たちのそばを飛んでくるのは恐怖でしたし、ミツバチとは言っても、できれば刺されたくはないわけ・・・何度ミツバチたちに追いかけられたことでしょうか。(後程、安藤さんより「透明人間になったつもりで佇むように」と教わりました。) 私たちがお店で見かけるハチミツも、養蜂場のこうした苦労のおかげで食べられるのだなと改めて実感することができた養蜂場訪問となりました。この後「さくら養蜂園」さんの巣箱近くに自動撮影カメラを設置させていただきました。



本問) 安藤さんはもともと自然保護の活動をしてきたとのことですが、どういった経緯があるのですか？

安藤) 実家が養蜂場だったので、私は田舎に住みながら田舎が嫌いな典型的な都会志向の若者でした。しかしある時、知人に誘われ溪流釣りを案内し、子供の頃に川遊びをしたことや、亡くなった祖父に溪流釣りを教わったこと等を思い出して、本当の自分は自然が大好きなことに気づきました。それから田舎志向に180度転換しました。なにより季節ごとの自然の美しさが見えるようになり、本当に「目から鱗が落ちた」ように感じました。それまで卑屈に思っていた田舎暮らしが好きになり、祖父母の山暮らしの知恵や技がとても尊いことに気づきました。そして当時、西澤信雄さん(朝日鉱泉ナチュラリスト)が立ち上げたナチュラリストクラブにも参加するようになりました。バブル景気真っ只中、山形県朝日町でも拡大造林事業によって砂防ダムやゴルフ場の建設計画があり、山からは当たり前のようにチェーンソーの音が聞こえてくるようなありさまでした。結局バブルがはじけたことで、開発計画はとん挫したのですが、自然に目を向けられない世論にジレンマを感じました。そこでミツロウを知っている人が少なかつたこともあって、ミツバチの巣がろうそくになる「驚き」が人と森の距離を縮めてくれると考えました。私自身、開発に反対することだけではない「伝える」という自然保護の在り方に気づくことができました。

本) 安藤さんがミツロウを通して伝えたいこと、体験者から感じてほしいことは何ですか？

安) 「自然でありたい」と思う私の気持ちを伝えたいです。特に、人とミツバチと植物のつながり感じて欲しい。ミツバチはハチミツだけでなく農作物を受粉し私たちの食料も作ってくれます。ミツロウは軟膏や化粧品、ワックスなど多用途に使われています。ミツバチは植物に守られ、その植物もミツバチに実りを助けてもらっている。そしてその実りは、様々な生き物たちを潤します。ミツロウの優しい灯りや体験教室は、そんな人と自然のつながりの1ピースを想像してもらうための入り口となったらいいなと思っています。



本) ミツバチは人の世界の縮図だとのことですが、ミツバチから人の「みらい」がわかるのでしょうか。テクノロジーの進歩によって人と自然の関係は良くなっていると思いたいのですが。

安) 10年ほど前から使われている新型農業によって全国のミツバチが元気をなくしています。害虫の駆除で散布される農薬によってミツバチの免疫力が落ち、ダニや病原菌に冒されやすくなっています。これらの農業は少なからず私たちの食べる農産物の内部に残留しています。私たち人間のアルツハイマーや、鬱などの原因の一つとなっているとの見方もあります。また、受粉のため農家向けに販売されている「使い捨て蜂」は普通、受粉交配が終わると巣から出られなくして殺すのですが、それを可哀そうと思った農家が殺さずにそのままにしてしまいます。こうして農業で弱った群れには病気が発生し、別の健全なハチの群れにも伝染してしまうといった問題も起こっています。人とミツバチのより良い関係は、利便性と儲け優先の人の営みによって崩れかかっています。



本) 今年の春は温かい日が続いたり、気候的な異常が大きかったのですが、ミツバチたちはどうでしたか？

安) 地球温暖化によって20年前に比べ、トチノキの開花は2~3週間早くなりました。特に今年

は花が早く咲き、あっという間に散ってしまったので、ハチミツの収量も例年の半分でした。トチノキの花自体も少なかったこと、ミツバチの発生時期と開花時期のタイミングがずれたことも影響しています。

本) これから「ハチ蜜の森キャンダル」へ来場される方へ一言お願いいたします。

安) ぜひ、家族やグループで体験にいらしてください。蜜蝋キャンダルづくりの他にもミツバチ観察会や森歩き、点灯会、スライドショーも楽しめます。



「食べられるの!？」とれたてミツバチの「巣」を試食する

以前、イベントでお見かけした安藤さんに「ハチクマって養蜂場にやってくるんですか？」という質問をしたところ、「ああ、来るよ〜。最近テレビで知ったけど、遠いところからわざわざ日本まで来るんだね〜。あんなに苦労して渡ってくるんだしたら、私も蜂の子大好物だけどもっと分けてあげたくね〜。」という会話が盛り上がり、以来、いつか資料として映像を撮影させていただきたいと考えていたところ、今回の養蜂場訪問を実現させていただきました。安藤さんは初めてハチクマを見た時に「タカにしては優しい顔をしているな・・・」と感じたそうです。なるほど確かにハチクマのみは瞳が黒っぽくて、体の大きさの割にはきつい印象がないのは確かです。ハチクマは警戒心が強いこともあって、養蜂場にも必ず出会うわけではないのですが、落ちていたハチの巣の食痕が見られると「今年も来ているんだなあ」と愛着がわいているとのことでした。

安藤さんの優しい笑顔と、暖かな蜜ろうそくのもしびに心が洗われたような気がしました。お別れが名残惜しかったです。皆さんも、ぜひ山形県朝日町の「ハチ蜜の森キャンダル」へ遊びに行ってみてください。



ハチ蜜の森キャンダル
山形県西村山郡朝日町立木825-3
TEL 0237-67-3260
E-mail: ryusbees@alto.ocn.ne.jp
<http://mitsuro.com/index.html>
体験やイベントも開催

さくら養蜂園
山形県西村山郡朝日町宮1070-5
TEL 0237-67-2320
定休日: 日曜、月曜
事前に連絡をしてください

ハチクマ養蜂場に現る

文・長船裕紀

近年テレビ番組でも特集が組まれるなど、注目されつつある猛禽類の一種、ハチクマ。猛禽類の中ではマイナーな存在だったハチクマですが、すでに皆さんの中にも耳にしたことがある方がいるのではないのでしょうか。当センターでも先日企画展『ハチクマと里山のクロスズメバチ』(4/25～6/14)を催しました。

さて、昨年センターのイベントで使用している蜜ろうの仕入れ先の安藤さん(ハチ蜜の森キャンドル)から「うちの養蜂場にハチクマが来るよ」と聞いたため、ならばビデオカメラで監視してみようということになりました。さっそく現地(山形県朝日町)を訪れ、安藤さんに標高 510m の小高い蜂場に案内されました。この辺りは磐梯朝日国立公園の大朝日岳の玄関口で、とてもどかな集落でした。蜂場には採蜜作業を控えたセイヨウミツバチの巣箱が 25 個並び、ブンブンとハチが飛び回っていました。周囲はクマ被害を防ぐ電柵で四角く囲われていて、自動撮影カメラを巣箱が広く見渡せるよう電柵の角に設置し、2 週間*1モニタリングしました。

使用した自動撮影カメラ*2は、いわばデジタルカメラと同じで SD カードに保存されます。カメラの撮影設定は 1 回のセンサー感知で静止画を 2 枚連写後、動画を 20 秒録画(静止画 2+動画 1)にセットしました。ハチクマが飛来後、センサー感知する範囲内に留まっていれば、範囲外に出るまでは絶えず撮影を繰り返します。撮影された写真をパソコンで確認した結果、3 度ハチクマが蜂場を訪れたことが確認できました。それぞれの飛来日時と滞在時間(1 度の飛来あたりの初回シャッター時刻と最終シャッター時刻から算出)を表 1 に示しました。

表 1. ハチクマの撮影状況

	月日	初回撮影時刻	滞在時間 ^①	撮影回数 ^②
1 度目	5 月 24 日	16:19:00	39 分 38 秒	13
2 度目	5 月 28 日	14:30:33	47 秒	1
3 度目	5 月 29 日	16:40:10	6 分 54 秒	4
				18

①1 度の飛来あたりの初回シャッター時刻と最終シャッター時刻から算出

②静止画 2+動画 1 を 1 回とカウントする

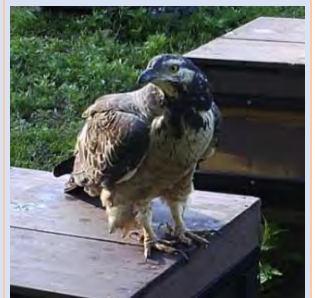
1 度目は 5 月 24 日 16:19:00 から 39 分 38 秒、2 度目は 5 月 28 日 14:30:33 から 47 秒、3 度目は 5 月 29 日 16:40:10 から 6 分 54 秒でした*3。2 度目の滞在時間は短いのは、ハチクマが

歩行移動しカメラのセンサー範囲を超えたためです。3 度目は雌雄共に飛去したことが動画で確認できました(1 度目は不明)。

1 度目と 3 度目は雌雄 2 個体で、2 度目は雄が単独で撮影されました。3 度確認した雄、2 度確認した雌いずれも成鳥で、羽根の色彩の特徴から中間型といわれるタイプと思われる。



確認された雌成鳥(飛来 1 度目)



←のハチクマを拡大



蜂の子を捕食する雌雄(飛来 1 度目)



←のハチクマを拡大

猛禽類を観察している私たちや猛禽類調査を生業にする調査員、タカの渡りを楽しむバードウォッチャーにとってハチクマを見る機会は多いのですが、見るのはいつも飛んでいる姿ばかりで地面に降りる姿はなかなか見られません。本モニタリングにおいても直接見ることはできませんでした。しかし、ハチクマが巣箱の上に降り立つ様子や地上を歩く姿、巣盤から蜂の子を摘み出し捕食する姿、ハチにたかられても全く動じない姿が確認できるなど、様々な情報を得ることができました。今回撮影された写真(動画)は、今後の普及啓発(チラシ・パンフレットなど)の場で何度か登場する機会があると思います。近日ホームページで公開しますので、ぜひご覧ください。

※1:実働撮影期間:2015 年 5 月 18 日(pm18:48)～5 月 31 日(am10:53) ※2:今回使用したカメラと主な仕様:LTL ACORN LtL-5310、センサー範囲最大 20m、撮影角度 55 度 ※3:撮影された写真からのみで判断しているため過小評価されています。



イベント開催報告①

○猛禽類観察会「サシバ、庄内に舞い降りる！」開催しました。

4月19日（日）に「サシバ、庄内に舞い降りる！」を開催しました。講師は長船裕紀アクティंगレンジャーです。サシバは20年前に比べてその数が半減しているという調査結果が出ており、平成25年に環境省によって「サシバ保護の進め方（保護指針）」が策定されるなど、現在注目を集めている種です。今年の庄内地方におけるサシバの飛来は例年より遅かったこともあり、開催日まで不安でしたが、観察会当日はその元気な姿を私たちに披露してくれました。サシバの繁殖には谷津田と呼ばれる、谷あいの水田環境が必要であるとされています。しかし、生産効率の悪い里山の水田は、減反政策によっていち早く利用されなくなり、さらには中山間地域の住民の高齢化による耕作放棄といった事態が起っています。人と共存してきたサシバにとって適度に整備された谷津田環境は、生物多様性に優れ、繁殖地として最も適した環境です。

日本の農家がずっと営農していくことができる環境が、日本にやってくるサシバにとっても重要であることを理解していただきました。参加して下さった皆さんありがとうございました。

この日見られた鳥：サシバ、ノスリ、クマタカ、ホオジロ、モズ、アオサギ、ハクセキレイ、ハシボソガラス、カケス、ハシブトガラス、ツバメ、アマツバメ、ウグイス、ヒヨドリ、カルガモ、キセキレイ、ハヤブサ、カワラヒワ



○月山ビジターセンター・鳥海イヌワシ^{さえず}みらい館共催 「春を感じる囀り観察会」開催しました。

5月16日（土）は月山ビジターセンターとの共催イベント「春を感じる囀り観察会」を開催しました。講師はネイチャーカメラマンの太田威さんです。当日はあいにくの雨となりましたが、講師の太田威さんが、鳥だけでなく上池周辺に生育する植物の解説をしてくださったりと、とても楽しめる内容でした。鳥もサンコウチョウの声やサンショウクイの声などを聞くことができました。月山ビジターセンターのみなさん、講師の太田威さん、参加して下さった皆さん、雨の中ありがとうございました。



○野鳥観察会「最上川河口鳥獣保護区観察会」開催しました。

5月17日（日）は酒田市の離島、野鳥の楽園といわれる飛島にて観察会の予定でしたが、強風により定期船が欠航となったため、長船アクティंगレンジャーを講師に最上川河口鳥獣保護区で観察会を行いました。最上川では、ミサゴとトビがエサを持って飛行する姿が見られたほか、絶滅危惧種のコアジサシが水面近くを飛行する姿を観察することができました。今回は飛島に行くことはできませんでしたが、またいつか観察会を計画したいと思いますので、ぜひご参加ください。

この日見られた鳥：ノスリ、ミサゴ、トビ、キジ、ハクセキレイ、コアジサシ、カッコウ、コハクチョウ、ツバメ、アオサギ、ダイサギ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コヨシキリ、オオヨシキリ、ヨシガモ、モズ、カルガモ、アマツバメ、ムクドリ、ヒヨドリ、ウミネコ、ホオジロ、キジバト、コムクドリ、カワラヒワ



○猛禽類観察会「闇夜の猛禽～フクロウ～」開催しました。

6月21日（日）は「闇夜の猛禽～フクロウ～」と題して、最近テレビなどでも見かけることの多いフクロウの観察会を行いました。講師は希少動植物調査会緑の玉手箱会長の齋藤利孝さんです。夜活動するフクロウですが、この日は夏至近かったこともあって遅くまで明るい状況でした。暗くなるまでの間、館内でフクロウの生態を知るための講座と、フクロウに関する法律のお話、長船アクティंगレンジャーによるペリットの解析をしました。外に出てフクロウの声を探しましたが残念ながら確認することはできませんでした。しかし「ヨタカ」の鳴き声を聞くことができました。講師の齋藤利孝さん、夜遅くまで参加して下さった皆さんありがとうございました。



イベント開催報告②

○開館15周年特別企画展示

「ハチクマと里山のクロスズメバチ」開催しました。

4月25日(土)から6月15日(日)まで、昆虫写真家高嶋清明さんによるクロスズメバチの生態を追った写真と、それをエサにする猛禽類ハチクマの企画展示を開催しました。普段は見ることのない迫力のあるハチの画像と、ハチクマに関する資料で楽しく構成しました。ハチクマやサシバ、クロスズメバチなどどれも初めて耳にするという来館者もいました。ゴールデンウィークのイベント「蜜ろうそく作り」も楽しんで参加してくれました。今後も家族で楽しめる企画を開催したいと思いますので、ぜひまたご来館ください。



○「新宿御苑みどりフェスタ2015」出展しました。

4月29日(水・祝)は毎年恒例の新宿御苑みどりフェスタ2015へ出展しました。今回は環境省東北地方環境事務所の一部として出展しました。イヌワシの巣とヒナのぬいぐるみや、エサとなるウサギのぬいぐるみのほか、テント内には「イヌワシ大明神」を安置し、おみくじを引けるようにしました。イベントにはワッシーくんも登場し、みどりフェスタを盛り上げました。イヌワシの視力体験と、ワッシーくんのぬりえコーナーも大人気でした。1000人近い人がブースを訪れてくれました。鳥海イヌワシみらい館の名前を見つけたらぜひ遊びに来てください。



イベント情報コーナー①

○鳥海イヌワシみらい館 開館15周年夏休み特別企画展示 イヌワシのみらい わたしたちのみらい

「みらい」をテーマにイヌワシと私たちの今とこれからを考える、参加型の展示会です。みんなで一緒に「みらい」について考えてみましょう。

期 日 平成27年7月18日(土)～8月31日(月)
時 間 9:00～16:30
場 所 鳥海イヌワシみらい館展示室
入館料 無料
主 催 猛禽類保護センター活用協議会
協 力 酒田市光丘文庫 Spiber株式会社
鶴岡市シルクタウン・プロジェクト
松森写真館 NPO法人日本宇宙旅行協会
株式会社クラブツーリズム・スペースツアーズ
エコ・パワー株式会社

お問合せ
E-mail moukin@raptor-c.com
TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)

●夏休み特別企画展示記念イベント 「いきものみらいカフェ」

期 日 9月9日(水)
参加費 無料
参加対象 どなたでも
場 所 酒田市総合文化センター 411号室
参加受付 8月1日(土)より受け付け開始
持ち物 飲み物を準備しますので、マイコップをご持参ください。



鳥海イヌワシみらい館 開館15周年 夏休み特別企画展示

「みらい」をテーマに、イヌワシと私たちの今とこれからを考える、参加型の展示会です。みんなで一緒に「みらい」について考えてみましょう。

夏休み特別企画展示記念イベント
「いきものみらいカフェ」
展示で得られた結果をもとに、人間と生き物の「みらい」についてお話しませんか?
日 時 9月9日(水) 18:30～20:00
場 所 酒田市文化センター 411号室
飲み物を準備いたしますので、マイコップをご持参下さい。
8月1日より参加受付開始(当日参加可)
TEL 0234-64-4682 鳥海自然保護官事務所

開催期日 平成27年7月18日(土)～8月31日(月)
展示会場 鳥海イヌワシみらい館展示室
観覧時間 午前9時～午後4時30分
入館料 無料
お問合せ 鳥海イヌワシみらい館(猛禽類保護センター)
〒999-8207 山形県酒田市東津温1台71-1
TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

主 催 猛禽類保護センター活用協議会 共 催 環境省 鳥海自然保護官事務所
協 力 酒田市立図書館 酒田市光丘文庫 鶴岡市シルクタウンプロジェクト Spiber株式会社 松森写真館
NPO法人日本宇宙旅行協会 株式会社クラブツーリズム・スペースツアーズ エコ・パワー株式会社

←江戸時代の人が考えた「みらい」の飛行機「鳥船」

イベント情報コーナー②

鳥海イヌワシみらい館 (猛禽類保護センター)

夏休み体験プログラム

7月18日(土)～8月16日(日)

9:00～16:30

ワッシーくんのぬりえコーナーも用意していますので、小さいお子様も一緒にご来場ください!



もく へん 木片スライスでクラフト!

7月18日(土)～26日(日)

参加費: 300円

木のシートを編んでコースターやブローチを作ってみたり、木の香りがする涼しげな暑中見舞いを出してみよう!
(作った木のハガキは82円切手で送ることができます。)



みつ 蜜ろうそくをつくらう!

7月27日(月)～8月2日(日)

参加費: 400円

ねんどのように好きな形のろうそくを作ります。



エコバッグをつくらう!

8月3日(月)～8月9日(日)

参加費: 200円

葉っぱ模様のすてきなエコバッグを作りましょう!



たか お鷹ぽっぽの絵付け

8月10日(月)～8月16日(日)

参加費: 500円

伝統工芸品に絵付することでワシ・タカ、フクロウたちの体の特徴を知ろう!



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

この夏は家族で「みらい」について考えてみませんか? 近いみらいでも、100年後のみらいでも。(本)

事務局

来館者過去5年間で最多記録更新中。夏休みも楽しいイベントでお待ちしています。(村)

自然保護専門員

夏の企画展で長船...もとい「鳥船」を見に来てください。チョウセンでなくトリブネよ。(長)

鳥海南麓自然保護官

今年からワッシーくんの活躍が増える! かも... (鎌)

編集後記&施設情報

鳥海イヌワシみらい館

7月～9月の開館情報

開館時間・・・9:00～16:30

入館料・・・無料

休館日・・・なし

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

猛禽類保護センター

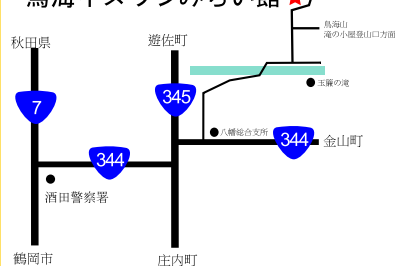
〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com

鳥海イヌワシみらい館



鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.15 2015年夏号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)